

2020年
6月号
NO.0094

カトリック笹丘教会 教会ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
TEL761-4504 fax761-4524
広報委員会

イエス様の御心



主任司祭 遠山満

御心の月となりました。イエス様は、言われました。「私をお遣わしになった方の御心とは、私に与えて下さった人を一人も失わないで、終りの日に復活させる事である」(ヨハネ6・39)。イエス様がおっしゃる、「私をお遣わしになった方」は、勿論、父なる神様です。この父なる神様と、イエス様の御心は同じです。この事が良く表れているのが、ルカ福音書15章に書かれている見失った羊の譬えです。イエス様は、善き羊飼いとして、私達一人一人を大切に思っています。

善き羊飼いであるイエス様に倣うように招かれているのが、専ら教会の奉仕者、例えば、司祭、修道者だけだと、私達は考えがちですが、実際は、私達皆、善き牧者であるイエス様に倣うように招かれています。何故なら、私達は、皆、神様から、ある人達の世話を託されているからです。司祭も、親も、教師、医師、看護師、公務員、介護士、その他の立場の方々も、他者との関係において、牧者です。私達は皆、良き牧者、大牧者であるイエス様に倣うよう、招かれています。

けれども、私達が疲れている時、自分に託されている人達を相応しく世話する事が出来なくなり、務めをなおざりにしてしまう事もあります。それゆえイエス様は言われました。「疲れた者、重荷を負う者は、誰でも私のもとに来なさい。休ませてあげよう。私は柔和で謙遜な者だから、私の轡を負い、私に学びなさい。そうすれば、あなた方は安らぎを得られる」(マタイ11・28~29)。私達は、イエス様の所で、重荷を下ろさねばなりません。それは、聖櫃の前で祈る事や、赦しの秘跡に与る事、守秘義務を守ってくれる誰かに悩みを聴いてもらう事、聖書を開いて祈る事などによって現実のものとなります。私達は、自分の心の中が重荷で一杯ならば、自分の心の中に誰かを迎え入れる事が出来ません。その重荷を取り除いて、他の人を迎え入れる部分を用意しなければなりません。

最後に、イエス様は、善き羊飼いであると同時に、神の小羊である事も思い出しましょう。イザヤ預言書の中に、イエス様の事が次のように記されています。「屠り場に引かれる小羊のように毛を切る者の前に物を言わない羊のように彼は口を開かなかった」(同書53・7)。私達、皆を救う為に、生贄の小羊となって下さいました。苦しみ之時、このイエス様の姿を思い出して、イエス様の苦しみに合わせて、私達の苦しみを捧げて参りましょう。

ヨゼフ・アベイヤ新司教様 笹丘教会初ご訪問

コロナ禍、ミサ中止の期間中、福岡教区新司教様の着任が決定。

5月17日大名町教会にて着座式が行われました。早速、5月19日午後、笹丘教会をご訪問されました。笹丘信徒会会長、女性の会会長も顔をそろえ、遠山神父様、ヒルデン神父様とともに和やかに談笑されました。



6月からミサを再開しますよ、ただし12の条件がありますけどね・・・



ヨゼフ・アベイヤ司教様



手作りおやつでもてなしました。



アベイヤ司教様、コーヒー、紅茶どちらになさいますか？



カトリック笹丘教会 役員会議事録（要旨）

開催日時：2020年5月23日（土）16：00～18：20

開催場所：信徒会館

出席者：遠山神父、川原、辻部、田川、菅、川原（圭）、喜多村、井口、牧山

欠席者：前田、畠山 司会：川原 書記：牧山

†フランシスコ教皇の聖母への祈り

議題

1. 公開ミサ再開への対応について

- ・アベイヤ司教様が出された5月22日付け文書「新型コロナウイルス対応公開ミサ再開に当たって」に記載されている指針に沿い、遠山神父様が小教区信徒に向けてお知らせ文書を作成して郵送し協力を要請する。
- ・感染を予防するため、文書で信徒に以下の協力を要請する。
 - ①1回のミサ参加者を70人程度に制限し、日曜日10時のミサ参加者に、可能な方であれば土曜夜7時か日曜7時半に参加するようお願いする。
 - ②自宅を出る前に検温し、熱が37度以上か体調不良の場合はミサ参加を自粛する。
 - ③聖堂に入る際にマスク着用、手指消毒、名簿への氏名・連絡先の記入をお願いする。
 - ④ミサ中聖歌は歌わない。これに伴いテゼの祈りやファミリア合唱団の活動も休止。
 - ⑤ミサ後茶話会や飲食は行わない。コーヒーコーナーやアンナ・ヨアキム会も休止。
- ・上記に当たり役員は以下のことを行う。
 - ①使用できないベンチ及び座席を明示する。（菅）
 - ②土曜7時、日曜7時半、日曜10時ごとに名簿を準備する。（菅）
 - ③聖堂内を喚起するため、換気スイッチを入れ、聖堂入り口ドアを開放する。
 - ④マスク着用、手指消毒、名簿への氏名・連絡先の記入を呼びかける。
土曜7時（辻部、田川）、日曜7時半（牧山、喜多村）、
日曜10時（川原、前田他）
 - ⑤マスクを忘れた人のために、マスクを準備する。（献金箱も用意する）
 - ⑥ミサ後ベンチ、ドアノブ、手すり等手が触れそうな箇所を消毒する。消毒方法を記載したカードを作る。（菅）

2. 信者総会開催について

- ・出席者が70人を超えることはないだろうとの想定のもと、総会を7月12日(日)に開催することとする。
- ・以下の書類を信徒全員に郵送する。
 - ①総会案内 ②規約(案) ③委任状 ④連絡網アンケート

3. 小教区連絡網について

- ・既に訃報のお知らせのための連絡網はあるが、整備不十分で連絡が届かないケースも生じている。今般の新型コロナウイルス対応に際して、小教区信徒全員に確実に連絡する必要性が生じている。そのためレジオマリア会員の協力を得ながら、きめ細かな連絡網を構築するためにアンケートを取ることとする。
- ・新たな連絡網は信者会のパソコンに入れて管理・運用を行う。

4. 小教区のグループ分けについて

- ・規約(案)と同時に提示していたグループ分けは、従来の班を単純に機械的に4つに分けたもので世帯数にかなり偏りがある。そのため現在見直しを図っている。(川原圭、前田、菅、喜多村)

5. その他

- ・今回教会ニュースをカラーコピーしたが、その費用は信者会で持つこととする。
- ・今まで毎月発行していた教会ニュースの発行頻度を、今後年数回に減らし、カラー部分は信者会で購入した複合機で印刷することとする。(広報委員会と協議後)

6. 今後の予定

- ・6/1(月)～平日のミサ再開
- ・6/6(土)～主日のミサ再開
- ・7/12(日) 信者総会

✝アヴェマリアの祈り





「レジオマリエ」をご存じですか？



第10回

福岡教区は、新型コロナウイルス感染症関連の暗いニュースが多い中で、喜びのニュースを聞くことができました。5月17日のアベイヤ新司教様の着座式と6月1日からの公開ミサ再開のニュースです。4月14日に、アベイヤ司教様が大阪から来られるというニュースを聞き、私たち教区の信者は、大きな喜びに包まれました。苦しみの中にも、神様が私たちのことを考えて下さっていたことがよくわかるできごとでした。新司教様誕生の余波でしょうか、思いがけず早期にミサ再開となりました。奇しくも、6月1日は、「教会の母聖マリア」の記念日でした。まだまだ不安はあるものの、教会に集い、共にミサに与ることができるようになったことは本当に喜びです。2月末に味わったあの驚き、寂しさを思い出します。教会に集いミサに与ること、ご復活やご降誕を皆で祝うこと、勉強会に参加したりすることを当然のように思っていたことを猛省させられました。以後、漫然とお祈りしていたことを反省、少しでも早く新型コロナ感染拡大が収束するよう、心から祈るよういたしました。

レジオマリエのコーナーというより、松永久次郎司教様を紹介するコーナーのようになっていますが、今回も、心に響いた箇所を紹介させていただきます。

キリストは定められたときが満ちてご昇天になりました。…………ご昇天は、ご復活の神秘と一体をなすものであります。ご昇天の神秘は、人の子であり、私たちの兄弟であるキリストにとって、特にふさわしいことでした。ご昇天は、神の子に合わせられた人間性、私たちも共にする人間性が、キリストにおいて、御父のもとに引き上げられ、受け入れられたことを意味するからです。…………キリストのご昇天は、私たちがいつか、この地を離れて天国の住人となるべき召し出しを受けていること、そのことを考えて、この地上の生活を整えなければならないことを教えるものであります。

…………ご昇天のときはまた、聖霊のおいでをお祈りするときは、弟子たちはキリストを見送ったのち、マリアを中心にして集まり、天よりの助け手の到来を待ちつつ、こころを合わせて祈っていました。人の子となられたキリストから肉において離れて生きる期間は、聖書においてキリストと共に生きる期間でなければなりません。私たちは聖霊をいただく日まで、マリアと共に祈りを捧げねばなりません。天におのぼりになったキリストに、聖霊の派遣を強くお願いしなければならないのであります。

キリストは、御父のもとにお帰りになってのち、聖霊をお遣わしになりました。聖霊は、姿を持たない神です。聖霊は声を出して語ることはありません。…………聖霊は、私たちにキリストを認めさせ、キリストの教えを思い出させ、悟らせてくださいます。私たちの肉の眼は、光がなければ物を見ることができません。同じように、私たちがキリストを正しく認め、そのみ教えを生命的に受け入れるためには、聖霊のお恵みが必要なのです。……

聖霊はまた、私たちの弱さを助けてくださいます。「私たちはどのように祈るべきかを知りませんが、聖霊ご自身がことばに表せないうめきを通して、私たちのために執りなしてくださるのです。」（松永久次郎著「ロザリオのこころ」より）

皆様とまた、聖堂でお会いするのを、心から楽しみにしています。

(2020.6.4 記)



コロナショック “信仰生活を語る”



5月末の日曜日をもって信者が参加しないミサが終了することになりました。

そこで、四旬節と復活節という重要で長い時期（とき）を如何に過ごしてきたかを、振り返ってみました。

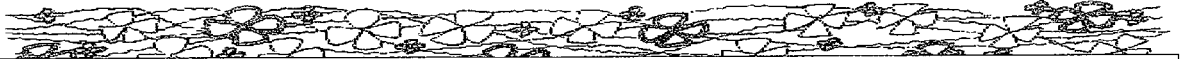
ファミリア合唱団に属していたおかげで、毎週日曜日の10時から LINE を使ってオルガンを弾いてもらい、その音と映像に合わせて歌うことが毎週の楽しみとなりました。

その後、聖書と典礼を声を出して読み、福音書の後には遠山神父様の説教を読み、カトリック新聞の「キリストの光 光のキリスト」を読み、福岡教区の説教を YouTube で聴き、午前中の1時間を過ごしました。

午後は2時から3時の間に笹丘教会へ行き、聖体訪問をしました。中央協議会のホームページでは、関口教会でのミサに与ることができますが、ミサに飢えていたかったので、聖体訪問を選びました。

聖堂内が閑散としていて、皆さんの姿と歌声（もちろんオルガンの音も）を思い起こしながら、早く元の様にミサが行われる日を夢見ていました。

ここで遠山神父様と事務の伊藤さんに聖書と典礼や教区報、教会だより、各種のお知らせを送って下さったことを感謝します。他の小教区よりも動きが早かったことが自慢です。(H.M.)



編集後記

ミサ非公開中の、日曜日の我が家の光景。

10時から東京カテドラルのオンラインミサに与る。ただ、私の周りとはとにかく騒がしい。ミサに集中できず、イライラしながらふと顔を上げると、オリジナルの祭服に身を包んだ小さな神父様（自称コルベ神父）が、ニコニコしながら佇んでいる。おもちゃの器にちぎったティッシュをいれ、聖体拝領してくださる。さすがにその時ばかりは、私も幸せな気持ちで神様を賛美する。

子供は、自分のものではない。子育ては思うようにはいかない（親も日々失敗をする）。長い休み中、難しい長男の学習には多くのエネルギーが必要で、限界を感じ、先のことも含め真剣に悩んでいた。

しかし考えてみれば、子供の将来がどのような姿であっても、私達には最後、永遠の幸せが約束されている。それはこの上ない希望となる。洗礼のお恵みを頂いていることを、ミサ再開の喜びを、心から神様に感謝したい。そしてその喜びを周りの人々に宣べ伝える為、一歩ずつ踏み出していけたらと思う。(A.S)